平成２９年度　自己評価実践報告

学校名　安達高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

１　『学校経営・運営ビジョンについて』

（１）『学校経営・運営ビジョンについて』（別紙）

（２）今年度の重点事項作成のねらい

平成２８度までの学校経営の継続性と生徒の実態を踏まえ、５つの重点事項を設定した。そのねらいは、以下のとおりである。

① 進路希望の実現
② 基本的生活習慣の確立
③ ＥＳＤ教育・特別活動・部活動の充実
④ 教職員の指導力の向上
⑤ 開かれた学校づくりの推進

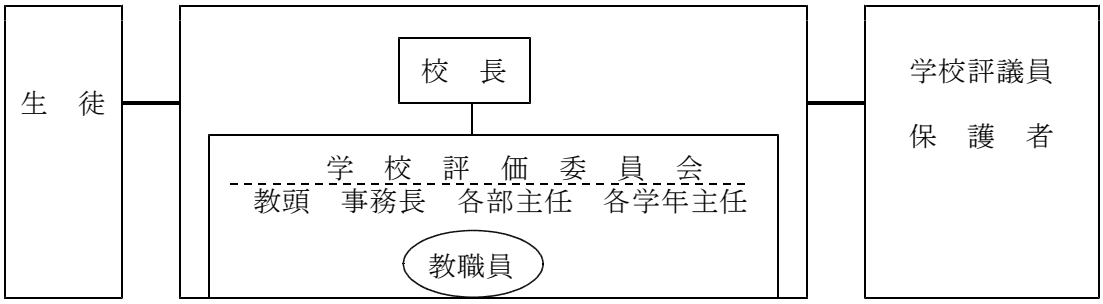
また、「安達高校の挑戦～創立１００周年（H35）へ向けて」を策定し、長期指針を示した。

（３）作成のプロセス

昨年度のビジョンを踏まえて校長が立案し、メッセージを加え、運営委員会で意見を聴取して修正を加え、職員会議に提示して教職員の共通理解を得て作成した。

２　校内組織体制について

（１）　組織図



【学校評価委員会の役割】

○学校評価に関わる各種原案作成等 ・評価項目の検討と評価表の作成 ・評価の実施と集計、分析、公表 ・評価結果に基づく改善原案作成等	○各種資料の収集、整理、保管 ○評価に関する広報活動 ○その他学校評価に関わること

（２）組織作成のねらい

校長のもとに評価委員会を設け、この委員会が自己評価及び外部評価の原案作成、実施、分析等をすすめる役割を持たせた。今年度も評価委員会は運営委員会が兼ねる。

３　自己評価年計画について

（１）年間計画について

月	自 己 評 価 概 要	学校評議員による外部評価
４	○平成29年度学校経営・運営ビジョンの策定 ○平成29年度各部、学年、各教科、努力目標策定 ○保護者等への学校経営・運営ビジョンの公表	○学校評議員の委嘱
５	○学校評価委員会開催 ・学校評価年間計画案の検討 ・学校評価に関するアンケート内容の検討	
６		○第１回学校評議員会 ・学校経営・運営ビジョン等の説明
７		
８		
９	○学校評価に関するアンケート実施・回収	
１０	○学校評価に関するアンケート集計・分析 ○学校評価委員会開催 ・学校評価に関するアンケートの分析	
１１	○保護者等へのアンケート結果の公表	○第２回学校評議員会開催 ・学校評価に関するアンケート結果 ・学校経営の状況説明
１２		
１	○アンケート分析を踏まえた各部・各学年・各教科の努力目標に対する年度末評価	
２	○学校評価委員会開催 ・各部等の年度末評価について ・「自己評価実践報告書」について ○「評価書」の作成	○第３回学校評議員会開催 ・「自己評価実践報告」 ○学校評議員による評価の実施
３	○「自己評価実践報告書」「評価書」の県教育委員会への報告 ○平成30年度「学校経営・運営ビジョン」の検討	

（２）作成のねらい、意図

教職員の人事評価制度、各部・学年等の年度末反省、生徒・保護者による学校評価に関するアンケート、学校評議員による評価がそれぞれ連動し合うように年間計画を策定した。

Ⅱ　評価結果の概要

１　実施方法等

項　目	年　度　末　評　価			
	実施部署	評　価	実施方法	コメント
教職員の自己評価	学校評価委員会	４分法による評価	アンケート	・前年度との比較のため、質問項目は変更しなかった。 ・保護者の回収率を高めるため、引き続き広報活動を行う。
生徒による評価	学校評価委員会	４分法による評価	アンケート	
保護者による評価	学校評価委員会	４分法による評価	アンケート	
各部・学年・教科の努力目標に対する反省・評価	学校評価委員会		協議	・それぞれの反省評価を学校評議員会、学校評議員会、職員会議に提出した。
学校評議員による外部評価	学校評価委員会	記述	協議 アンケート	・反省評価を踏まえ、検討していただいた。

○ アンケート集計については三者間比較及び経年比較を実施し、本校の教育活動で評価されている事項、評価されていない事項が分類別、時系列で明らかになるよう工夫した。

２　アンケート及び回答数

（平成29年9月調査）

		Ｈ２９年度アンケート			Ｈ２８年度アンケート		
評　　価		対象数	回答数	回収率	対象数	回答数	回収率
教　職　員		３５	３５	100%	４１	４１	100%
教職員以外	生　徒	５７３	５４８	95.6%	６２１	６０５	97.4%
	保護者	５７３	４７５	82.9%	６２１	４２１	67.8%

○ 回答率については、一昨年度の反省を踏まえ、声かけを行うなどして、教職員は昨年度に引き続き100%を達成することができた。また、昨年度課題であった保護者の回収率については、教職員の呼びかけを複数回行うなどしたことにより回答率を改善することができた。来年度も教職員の呼びかけを複数回行うことで回答率を上げていきたい。

3　アンケートの評価基準について

評　　価	A	B	C	D
評価基準	よくあてはまる （そう思う）	やや当てはまる （だいたいそう思う）	あまり当てはまらない （あまりそう思わない）	全く当てはまらない （そう思わない）

※傾向を把握しやすいよう４分法による評価基準とした。

4　評価のまとめ

（1）自己評価の目的、意図

教職員、生徒、保護者によるアンケート形式の評価を行い、その結果を参考としながら各部・学年・教科の努力目標に対する自己評価を実施した。『学校経営・運営ビジョン』の重点事項の実践状況を確認した上で課題を見つけ、改善を図ることにより、次年度以降の教育活動の活性化をさらに進める。

（2）アンケートの分析から見た重点努力事項に対する評価及び達成状況と改善の方向性

①　重点事項１「進路希望の実現」について

進学については、国公立合格者が８名と、昨年の９名からは減少したが、昨年度と比べ、１クラス分少ない中での結果なので、割合で見ると増加したとみることができる。

増加の要因としては、生徒本人の努力が最も大きいが、教員側の関わりとしては、全校体制での小論文・面接指導や最後まであきらめない指導を個別指導を通して推し進めることができた事が大きな要因であると考えられる。

次年度の課題としては、学年の動きなどをより保護者に伝わるようにするとともに、大学入試改革への対応など、進路指導部と学年が一つになって生徒指導できる体制を更に強化していくことが必要である。

（生　徒）「本校では、大学、専門学校、就職など生徒の進路に応じた指導が適切に行われている」　92.5%（前年86.1%）

（保護者）「　〃　」　87.2%（前年86.9%）

（生　徒）「本校では、進路に関する情報の提供や相談をきめ細かに行っている」　80.5%（前年77.2%）

（保護者）「　〃　」　76.6%（前年73.4%）

②　重点事項２「基本的生活習慣の確立」について

今年度も全体的に落ち着いた学校生活であったと考えている。生徒指導上の特別な指導を受けた生徒は２件３名であった。欠席・遅刻の状況は、４月から２月までの１日あたりの1日当たりの平均欠席率は2.1%、1日当たりの平均遅刻率は0.4%であり、全体的には落ち着いた生活をしていると考えられる。平均欠席者数が多い要因としては、不登校傾向の生徒やその予備軍の存在があり、スクールカウンセラーの活用状況も月によってかなり高くなっていることから、引き続きメンタルなケアが必要である。

次年度においても、日常的な生徒の観察と指導を継続するとともに、予防的な指導に努めていきたい。

（生　徒）「本校は、落ち着いた雰囲気で安心して生活できる学校である」　78.8%（前年77.8%）

「本校の生徒は、基本的習慣や日常生活のマナー（時間を守る、挨拶をする）を身に付けている」　81.6％（前年85.0％）
「本校の生徒は、校則（頭髪・服装など）や社会のきまりを守って生活している」　80.5％（前年80.7％）
（保護者）「本校は、落ち着いた雰囲気で安心して生活できる学校である」
91.2％（前年92.4％）
「本校の生徒は、基本的習慣や日常生活のマナー（時間を守る、挨拶をする）を身に付けている」　89.7％（前年86.5％）
「本校の生徒は、校則（頭髪・服装など）や社会のきまりを守って生活している」　93.5％（前年92.2％）

③　重点事項３「ＥＳＤ教育・特別活動・部活動等の充実」について

ＥＳＤ教育の活動については、生徒保護者ともに高評価が得られた。日頃から 生徒会活動や部活動が活発であり、また、ユネスコスクールサポータークラブや部活動を続けた生徒が大学進学を果たす例が多く、生徒・保護者のアンケートからも本校の文武両道の精神が根付いているものと肯定的な評価を受けている。

今年も吹奏楽部などの部活で組織的なボランティア活動をしていることに加え、生徒会でも警察と連携し地域安全や社会モラルの向上といった目標でボランティア組織（リリバーズ）に加わっており、地域に貢献している。

（生　徒）「本校は、ＥＳＤ教育が活発に行われている」　94.0％（昨年88.1％）
（保護者）「本校はＥＳＤ教育に熱心である」　88.4％（昨年87.4％）
（生　徒）「本校は、部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多い」
91.8％（昨年89.6％）
（保護者）「　〃　」
88.0％（昨年91.2％）

④　重点事項４「教員の指導力の向上」について

教職員のアンケート結果では、「研修活動が計画的に活発に行われている」について、昨年度は肯定的評価が56.4％で、一昨年度の62.9％より低い評価となったが、今年度は研究授業を各教科で1回以上行うなど研修する機会に力を入れたため77.1％と高い評価となった。しかし、少子化に伴う生徒数減少の中、本校を志願する生徒層も変わってきており、わかりやすく教えることを追及することが、生徒の自立につながっていくのか、慎重に見定めていく必要はあると感じている。

また、年々日々の業務の多忙化が増す一方で、自身の教員スキルの向上を図りたいという教員の要求を実現できる職場環境づくりがポイントとなる。職員課が示した多忙化解消アクションプランが実効性のあるものとなるよう、県教育委員会のリーダーシップに期待したい。教職員の指導力向上については、来年度も普段の授業を他教科の先生方も参観できるようにし、授業研究に役立てられるようにしていきたい。

（教職員）「校内における教員の研修活動は、計画的に活発に行われている」
77.1％（昨年56.4％）
（生　徒）「本校の先生方の授業は、わかりやすい」　73.7％（昨年76.7％）
（保護者）「本校の先生方は、授業に熱心である」　87.6％（昨年84.9％）

⑤　重点事項５「開かれた学校作りの推進」について

今年度は、本校の教育活動を理解してもらうために、二本松市の広報課と連携して広報誌に活動内容を掲載するなどして広報に努めたが、生徒・保護者のアンケートでは、本校の情報発信についての肯定的回答が他の回答に比べて低いという現状がある。

本校の情報ツールとしては、ＰＴＡ新聞等の定期的な発行物の他、ＨＰやメール配信の「３９メール」を持っているが、ＨＰよりもメールによる情報発信が効果的であり、今後も緊急性のある情報や生徒に関わる重要な情報を中心に保護者に直接メール配信し、周知に努めていきたい。

（生　徒）「本校は、教育活動についてホームページや学年便りなどさまざまな方法で家庭・地域に情報発信をしている」　77.0%（昨年72.7%）

（保護者）「本校は、教育活動についてホームページや学年便りなどさまざまな方法で家庭・地域に情報発信をしている」　75.1%（昨年78.3%）

（３）ユネスコスクールとしての活動について

本校は県内最初の、また県内高校では唯一のユネスコスクールとして、今年度も多彩なＥＳＤ活動に取り組んできた。今年度もこれまでの復興教育に加え、国際理解教育の２つを軸にして教育活動を展開した。今後もＥＳＤ活動をとおして、様々な機会を生徒に提供することで、生徒の進路実現に役立ててきたいと考えている。

Ⅲ　広報の概要

１　目的や意図

教育活動の状況とその評価を公表することは、学校としての説明責任を果たすことである。また、教職員、生徒、保護者、地域社会から意見を聴取することにより、なお一層の信頼関係を深めるとともに、本校の教育活動に対する関心を高めることになる。

２　実施計画、及び実施状況

月	実施計画・実施状況の内容
4	○ 学校ホームページに『学校経営・運営ビジョン』を掲載した。 ○ ＰＴＡ総会で、『学校経営・運営ビジョン』を保護者へ配付し、校長より説明を行った。
5	○ 第１回学校評議員会で、『学校経営・運営ビジョン』を配付・説明するとともに学校の概況について説明した。
11	○ 第２回学校評議員会で授業参観を行うとともに『学校評価に関するアンケートの結果』について検討し、意見を聴取した。
1	○ 『学校評価に関するアンケートの結果』を学校ホームページに掲載した。
2	○ 第３回学校評議員会で『努力目標に対する評価と反省』を配付・説明し、意見を聴取した。

３　実施後の反省点

（１）アンケートや年度末反省で浮かび上がった課題については、運営委員会・職員会議で取り上げ、課題の共有を図った。ただ、その時期が年度末となるため、入試や卒業式の準備時期と重なり、十分な時間を確保するのが難しい。

（２）中学校への情報提供については、中学校での学校説明会や本校での体験入学等で本校についての理解を深めてもらっている。

Ⅳ　次年度に向けて

１　評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

生徒・保護者アンケート結果について、今年度もおおむね高い評価を得ることができたと考えている。また、学校評議員の方からも高い評価を得ることができた。評価の内容は多岐にわたるが、その評価の理由は、本校の教育活動の結果としての生徒の現況にあるが、具体的には、ユネスコスクール等の活動に見られる生徒の活動状況であり、そうした生徒の活動状況が外部からも知ることができるよう広報活動を行うこと、本校の教育活動をいかに地域・保護者、また中学校や関係機関へ発信し、理解を得るとともに、進路実現とどのようにつなげていくかということも次年度の大きな課題である。

本校への入学希望者の増加を図ることは、本校の重要課題の一つであるが、そのためには、本校の教育活動を広く中学校に理解してもらう必要があると考える。

２　自己評価全体の次年度に向けての課題、改善、取り組み等

（１）学校経営・運営ビジョンについて

「安達高校の挑戦～創立１００周年（H35）へ向けて」の中長期ビジョンを受けた学校経営・運営ビジョンとするとともに、平成２９年度の学校評価を実施して明らかになった課題や問題点についてさらに分析を進め、重点事項を設定する。

（２）組織について

学校評価委員を運営委員と同じメンバーとしたが、委員会としての活動に支障はなく、むしろ学校課題を検討する上で有効であった。

（３）年間計画について

今年度実施して円滑に進めることができた。次年度も同様の計画で実施していきたい。

（４）その他

ビジョンや学校評価の内容については、次年度もＨＰに掲載するだけでなく、保護者に対しても総会や保護者会など機会をとらえ、理解と協力を得るよう努めたい。

さらに、教職員一人ひとりが学校評価の意図等を再確認し、学校が抱えている課題の解決・改善に向けて学校全体で取り組んでいきたい。

３　終わりに

今年度の実践をとおして得られた多くの経験をもとに、次年度以降も課題や問題点の発見に努め、改善を図り、生徒の人間的な成長と自己実現を柱とした教育活動を推進していきたい。